



## 病棟紹介⑧

# 6階東病棟 (神経内科、代謝内分泌内科)

6階東病棟は病床数49床の神経内科と代謝内分泌内科の混合病棟です。

『一人ひとりの力を合わせて看護を楽しめる病棟になる』を病棟目標に掲げ、医師10名、看護師・助手26名が患者様の療養生活の支援をしています。」

疾患の特性から急な入院の場合も多く、病状や今後の治療のこと、退院後はどんな生活になるのかイメージが湧かないなど、様々な不安をかかえておられる患者様がたくさんいらっしゃいます。

まずは現在の病状や今後の治療計画について、主治医から十分な説明をうけていただき、病気を受けとめていただくことが大切です。私たち看護師は、患者様・ご家族が現状を受け止め、今後の療養生活について少しずつ考えていくことができるよう、患者様・ご家族との会話を大切にしたいと考えています。ご面会にいらした時など、看護師に気軽に声をおかけいただければと思います。

### 【神経内科】

脳梗塞、パーキンソン病、アルツハイマー病、脳炎・髄膜炎、ギランバレー症候群、重症筋無力症など急性期から慢性期の疾患まで多岐に渡ります。病気による障害により、歩行や食事・排泄といった動作がご自分でできなくなることがありますが、できるだけ自分の力を使って日常生活を送ることができるように、リハビリテーションをすすめています。



### 【代謝内科】

糖尿病など様々な生活習慣病を含む代謝性疾患と、ホルモン異常等の内分泌疾患があり、特に糖尿病の治療および教育入院に力を入れています。教育入院ではおよそ2週間の入院期間中に、食事・運動・薬物療法についてグループ学習を行い、生活改善に取り組んでいただいています。糖尿病などの代謝性疾患は、退院後の日常の生活習慣が治療に大きく影響しますので、かかりつけ医との協力を大切にしています。



最後に病棟自慢をひとつ。それは病室や談話室の窓から見える景色が美しいことです。夜景はもちろんのこと、漆黒の空から朝焼けへ刻々と夜が明けていく様子はとても美しく、地球のエネルギーを感じ、心癒されるひとときです。

6階東病棟看護師長：遠藤 純子